

令和 6 年 度 事 業 報 告

当機構の目的を達成するため、次に掲げる事業を行った。

1 評議員会・理事会開催状況

会 議 名	開 催 日	決議事項等の内容
令和 6 年度 第 1 回通常理事会	令和 6 年 5 月 29 日 会場:西鉄グランドホテル	[決議事項] ・ 令和 5 年度 事業報告 ・ 令和 5 年度 財務諸表等 ・ 令和 6 年度 定時評議員会の書面開催 及び提出議案 [報告事項] ・ 職務執行状況報告
令和 6 年度 定時評議員会	令和 6 年 6 月 14 日 書面開催	[決議事項] ・ 令和 5 年度 財務諸表等 ・ 理事 1 名の選任
令和 6 年度 第 1 回臨時理事会	令和 6 年 7 月 31 日 書面開催	[決議事項] ・ 令和 6 年度 第 1 回臨時評議員会の 書面開催
令和 6 年度 第 1 回臨時評議員会	令和 6 年 8 月 9 日 書面開催	[決議事項] ・ 理事 3 名の選任
令和 6 年度 第 2 回通常理事会	令和 7 年 2 月 14 日 会場:ソラリア西鉄ホテル	[決議事項] ・ 令和 7 年度 事業計画 ・ 令和 7 年度 収支予算 [報告事項] ・ 職務執行状況報告

※書面開催の開催日は、決議書の作成日

2 事業の概要

(1) 学術研究に関する広報活動事業

① セミナーの開催、展示会への出展

i 「九州大学学術研究都市セミナーin 東京2024」の開催

首都圏等における情報収集及び産学官連携、企業・研究機関の立地につながる企業訪問に有効であり、また九大学研都市のプレゼンス向上に資するため、セミナーを開催し、九州大学の研究シーズ、九大学研都市の施設・設備など最新の情報を広く発信した。

- ・テーマ：「最先端の研究が社会実装を加速する～「脱炭素」「医療・健康」「環境・食料」の社会的課題解決に向けて～」
- ・開催日：令和6年10月30日
- ・場所：ホテル雅叙園東京（ハイブリッド開催）
- ・参加者：196名（会場90名、Web106名）

ii 「九州大学学術研究都市フォーラム」の開催

地元経済界向けに九州大学の有する魅力や産学官連携の新たな取組みなどのプロモーションを行うとともに、大学と企業連携の端緒となる機会や、民間企業の参画を促す機会を創出し、九州大学発のイノベーションの取組みを加速させることを目的として開催した。

- ・開催日：令和7年1月28日
- ・場所：電気ビル共創館3階 カンファレンスA ほか
- ・参加者：82名（登壇者および事務局19名を除く）

iii 各種展示会への出展

「nanotech 2025」国際ナノテクノロジー総合展・技術会議

国内外から多数のナノテクノロジー関連企業が参加する世界最大級のナノテクノロジー展に、有機光エレクトロニクス実用化開発センター（i3-OPERA）、九州先端科学 技術研究所（ISIT）、株式会社KOARA Techと共同出展し、研究成果等の紹介を行った。

- ・開催日：令和7年1月29日～31日
- ・場所：東京ビッグサイト 東4・5ホール
- ・参加者：42,089名、名刺交換数131名

② 情報の総合窓口（プラットフォーム）化

i OPAckホームページ等での情報発信

九大学研都市の整備状況等、認知度向上のため、VR等も活用したPR動画等を作成したほか、九州大学および九大学研都市に関連する情報について、ホームページでの情報発信強化を図った。

ii メールマガジンの配信

当機構の活動並びに関係機関・団体等の情報をタイムリーに当機構の会員に対して配信した。（配信回数：28回、令和6年度末会員登録数：2,407会員）

iii SNSによる情報発信

Facebook、Instagram、X(旧 Twitter)を活用して、九大学研都市に関するイベント告知や開催報告、周辺情報等を配信した。

iv デジタルサイネージの活用

J R九大学研都市駅構内に設置しているデジタルサイネージ（情報発信ツールのモニターテレビ）を活用して、九州大学及び九大学研都市に関するセミナー、イベント等の開催情報を配信した。（配信件数：52件）

また、可動式のデジタルサイネージを導入し、九大学研都市内で実施される各種イベント等においても、九州大学関連の情報を発信できるよう拡充した。

③ 国省庁等への要望活動

i 国省庁への要望活動

令和6年8月14日および15日、関係省庁（経済産業省、国土交通省の6関係課等）に対し、九大学研都市の現状説明及び九大学研都市構想の推進に必要な事項に関する要望活動を実施した。

ii 地元選出国會議員への協力要請

令和7年2月18日、地元選出の國會議員（事務所）を訪問し、九大学研都市の現状説明及び九大学研都市構想の推進への協力を要請した。

(2) 産学官の共同研究による研究開発支援事業

① 分析クラスター形成プロジェクトの推進

i 「分析化学講習会」の開催支援

ii 九大学研都市内の分析機器の活用を図る「分析NEXT」支援

iii 「一般財団法人化学物質評価研究機構寄付講座」の開催支援（共催）

iv 施設入居者の発掘

v 「先端電子顕微鏡フォーラム」の運営

九州大学超顕微解析研究センターと連携して、九州大学保有の電子顕微鏡を民間企業に開放するセミナーの開催及び勧誘活動を実施した。

令和6年度末の会員企業数は、8社となっている。

ナノテク産業化基盤技術の有効活用及び高度化と融合を目指した「先端電子顕微鏡フォーラム研究・技術懇談会」を開催した。

・テーマ：「マテリアル研究の新展開」

・開催日：令和7年3月7日

・場所：九州大学 伊都ゲストハウス 多目的ホール

・参加者：55名

② 最先端研究プロジェクトの支援

九大学研都市の研究開発拠点形成、企業立地促進に向け、九州大学オープンイノベーションプラットフォームや最先端有機光エレクトロニクス研究センター（OPERA）等の活動を支援した。

i 「九州大学オープンイノベーションワークショップ」の共催

・開催日：令和6年10月16日

・場所：九州大学椎木講堂

・参加者：会場452名

- ii 「第20回有機光エレクトロニクス産業化研究会」の開催
 - ・テーマ：「有機光デバイスの解析・分析技術」
 - ・開催日：令和7年2月21日
 - ・場所：福岡県中小企業振興センター 401会議室
 - ・参加者：71名

- iii 脱炭素・エネルギー分野におけるプラットフォーム運営
 - 「九州脱炭素化研究会」の事務局として、ワークショップや施設見学会、交流会などの開催を通して産学連携を促進するための企画運営を実施した。
 - <主な活動内容>
 - ・運営委員会開催（12回）
 - ・総会開催（1回）
 - ・ワークショップ開催（6回）
 - ・施設見学会（1回）
 - ・交流会（3回） など
 - <法人会員数>
 - ・計33社（令和6年度末）

 - 「H₂&FC EXPO 2025」国際水素・燃料電池展
 - 水素・燃料電池の研究開発、製造に必要なあらゆる技術、部品・材料、装置、及び燃料電池システムが一堂に出展する世界最大の国際展示会で、「福岡県水素グリーン成長戦略会議」と共同出展し、「九州脱炭素化研究会」のPRをはじめ、九大学研都市の取組みの周知を行った。
 - ・開催日：令和7年2月19日～21日
 - ・場所：東京ビッグサイト 東展示棟1F
 - ・参加者：68,840名、名刺交換数113名

- iv 九州大学 学術研究・産学官連携本部、九州先端科学技術研究所（ISIT）と共催し、いとしま免疫村ワークショップを開催した。
 - 「いとしま免疫村」健康づくりワークショップ
 - ・テーマ：「講義と味噌づくりを通して学ぶ発酵食品と免疫の関係」
 - ・開催日：令和6年6月16日
 - ・場所：糸島市健康福祉センターふれあい
 - ・参加者：36名

 - 「いとしま免疫村」第2回健康づくりワークショップ
 - ・テーマ：「講義と運動体験を通して学ぶ私たちの生活と免疫の関係」
 - ・開催日：令和6年9月16日
 - ・場所：糸島市健康福祉センターふれあい
 - ・参加者：39名

- 「いとしま免疫村」第3回健康づくりワークショップ
 - ・テーマ：「聞いて・測って・見て・わかる免疫のチカラ」
 - ・開催日：令和7年2月15日
 - ・場所：糸島市健康福祉センターふれあい
 - ・参加者：50名

③ 九大理農系分野に対する最先端研究プロジェクト推進支援

i 農林水産分野におけるコンソーシアム組成

農林水産物の輸出拡大を目的に活動を展開している「農林水産物の輸出促進研究開発プラットフォーム@九州・沖縄」において、運営事務局として会員拡大に向けた企業訪問や会員交流、コンソーシアム創設に向けた企画運営を行った。令和6年度は新規会員として2社・団体が入会した。（令和6年度末会員数：98社・団体）

令和6年度の総会において、2期・10年の節目となる令和7年度の活動をもって、プラットフォームを解散することが決議された。

ii 「第4回公開シンポジウム」の開催

- ・テーマ：「農林水産物・食品の輸出と産学連携
～ ビジネスと研究の融合が生み出す未来～」
- ・開催日：令和7年3月18日
- ・場所：西鉄グランドホテル プレジールB（ハイブリッド開催）
- ・参加者：40名（会場19名、Web21名）

④ 九大研究シーズ発表会

九州大学オープンプラットフォームの協力の下、OPACKが主催する各種セミナー等において九大研究シーズを発表いただいた。

⑤ 九大学研都市起業・事業化支援

九州大学の研究シーズを活かした大学発ベンチャーを支援し、研究成果の社会還元と地域発イノベーションの創出を促進するため、研究者、起業家及び企業者とのマッチングセミナーを開催するとともに、関係者のネットワーク構築を行った。

i 九州大学発スタートアップマッチングセミナーの開催

- ・テーマ：「スタートアップとともに研究成果で未来を拓く」
- ・開催日：令和6年9月25日
- ・場所：日本橋ライフサイエンスビル
- ・参加者：51名
- ・個別相談：9件

ii 九大ギャップファンド採択者等と企業とのマッチング

九州大学の研究成果（知的財産）に基づく大学発ベンチャー採択案件に対し、11件のマッチングを実施した。

⑥ 九大学研都市を実証フィールドとする研究プロジェクト

先進的な実証研究実施地域の視察、学会大会・研究会等への参加、大学・企業・国・自治体への訪問等により、産学官共同による実証・実装事業の動向を把握し、九州大学の研究シーズ、関係自治体や地元企業等の社会的ニーズに基づいて九大学研都市ならではの实証研究テーマを発掘し、九大学研都市を実証フィールドとする研究プロジェクトの導入を支援しました。(令和6年度実証実験：新規7件、継続4件)

(3) 産学連携交流支援事業

① 国際的な学術文化都市にふさわしいまちづくりの促進

外国人が生活しやすい良好なまちづくりや地元企業に対する留学生受入拡大、産学官民の連携による学術研究都市づくりに向けて取組を行った。

- i 「第15回 九大学研都市・外国人にも住みやすい環境整備推進会議」の開催
産学官及び国際化支援団体と九大学研都市の国際化に関する会議を開催した。
(令和7年3月18日)

- ii 「九州大学・外国人のための生活相談会」の開催

○令和6年度第1回

- ・開催日：令和6年4月23日
- ・場所：九州大学伊都キャンパス
- ・参加者：33名（17ヵ国・地域）留学生・教員など

○令和6年度第2回

- ・開催日：令和6年10月30日
- ・場所：九州大学伊都キャンパス
- ・参加者：36名（14ヵ国・地域）留学生・教員など

- iii 「九州大学留学生交流事業」の開催

○外国人留学生と地元高校生との交流イベント

- ・開催日：令和6年9月28日および令和6年12月14日
- ・場所：福岡舞鶴高等学校
- ・参加者：両日ともに約20名

○国際村交流事業グローバルクリスマスホリデー（糸島市主催）

- ・開催日：令和6年12月15日
- ・場所：グローバルホテル糸島
- ・参加者：約80名

○JA福岡市元岡支部での留学生と地域の交流イベント

- ・開催日：令和6年12月17日
- ・場所：JA福岡市元岡支部
- ・参加者：約30名

iv 「九州大学留学生限定 地元企業研究・交流会（オンライン）」の開催

- ・開催日：令和6年5月20日
- ・場所：Web
- ・留学生：52名
- ・企業等：15社

v 「アーバンデザイン会議九大（UDCQ）」の開催

○ 第70回

- ・開催日：令和6年12月10日
- ・場所：九州大学伊都キャンパス イースト1号館 2階会議室
- ・テーマ：「実情を踏まえた交通の利便性向上について考える」
- ・参加者：56名

vi 九大および関係団体による「共創の場」の創出グループ「K@ITO」によるサイエンスマルシェの開催

- ・開催日：令和7年3月22日～23日
- ・場所：いとLab+ 蔦屋書店内アトラウンジほか
- ・内容：「Qst Lounge #4 科学が好き！だから日本へ、だから海外へ」
「いきものサロン：絨毛で泳ぐマイクロな運動組織と生体模倣工学」
「ピカリかがく：身近な化学や光を体験しよう！」
「九州大学：農場のひみつを発見！（施設見学）」
「九州大学：水素エネルギー技術紹介（施設見学）」 ほか
- ・来場者：約8,800名（通常来館者数を含む）

vii 「第15回 九大学研都市交通手段等検討会」の開催

産学官での九大学研都市交通体系の強化に関する会議を開催した。
(令和7年3月14日)

② 九大学術研究・産学官連携本部、その他関係機関との連携強化

九州大学学術研究・産学官連携本部（主に九州大学オープンイノベーションプラットフォーム）と経常的に情報交換するとともに、連携してセミナー開催等の事業を実施した。

(4) 研究機関等の立地支援事業

① リサーチパーク等への研究所立地支援、産学連携施設への入居者誘致

既に立地する「水素エネルギー製品研究試験センター（HyTReC）」、「最先端有機光エレクトロニクス研究センター（OPERA）」、「有機光エレクトロニクス実用化開発センター（i3-OPERA）」、「三次元半導体研究センター・社会システム実証センター」等を利活用する可能性が高い企業、展示会・セミナー等の参加企業及び九州大学との共同研究に関心がある企業を中心に訪問活動を行った。

本事業で関与した企業・機関のうち8社について、九州大学との共同研究等につなげることができた。

<訪問先> 合計93社・機関（うちWeb面談：3社・機関）

脱炭素関連：12社、ナノテク関連：1社、アグリ・バイオ関連：14社、
半導体関連：3社、エネルギー関連：1社、社会システム・ICT：2社、
ライフサイエンス関連：6社、銀行・投資関連：15社、その他：32社、公的機関：7機関

② 企業の要望に応じた視察対応

九大学研都市や九大シーズに関心を寄せた企業等に対し、要望に応じて個別に立地用地や九大シーズ、利用可能な設備、九大学研都市に立地した研究所・産学連携施設の現地案内・マッチングを行った。

・視察実施回数：10回（10社・機関：35名）

・ビジネスマッチング：21回（18社・機関：77名）

③ 学術研究都市に必要な機能の立地支援

研究機関等の立地支援事業を実施する上で必要な、関係企業・機関、団体等との各種連絡・調整等を適宜行った。

また、九州大学の学生団体が実施した、ネットスーパーで注文された生鮮食品を路線バスで運ぶ貨客混載の実証事業において、学生の生活利便性向上を目的に実証事業の利用促進に向けて、大学とともに広報PRなどを行った。

(5) 組織運営

九州大学学術研究都市企画会議・情報会議の開催

福岡県、福岡市、糸島市、九州大学、九州経済連合会の九大学研都市づくり担当者による重要事項の審議、情報の共有等を行うための会議を4回(5月、7月、10月、1月)開催した。

以 上

事業報告の附属明細書

令和6年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書の「事業報告の内容を補足する重要な事項」はありません。

公益財団法人 九州大学学術研究都市推進機構

理事長 貫 正 義

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則
(平成十九年四月二十日法務省令第二十八号)

第四款 事業報告

第三十四条 法第二百二十三条第二項の規定により作成すべき事業報告及びその附属明細書については、この条の定めるところによる。ただし、他の法令に別段の定めがある場合は、この限りでない。

- 2 事業報告は、次に掲げる事項をその内容としなければならない。
 - 一 当該一般社団法人の状況に関する重要な事項（計算書類及びその附属明細書の内容となる事項を除く。）
 - 二 法第七十六条第三項第三号及び第九十条第四項第五号に規定する体制の整備についての決定又は決議があるときは、その決定又は決議の内容の概要
- 3 事業報告の附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項をその内容としなければならない。